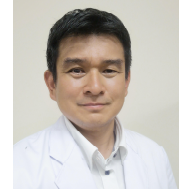


診療科長交代のご挨拶



新年度を迎え、東海大学医学部附属病院東洋医学科の診療体制が変わりましたのご案内させていただきます。

長年、当科の診療を支えてくださった新井信先生が定年を迎えられ、2023年度末を以てご退官されました。ご退官以後も新井先生には客員教授として東海大学での教育、研究活動にご従事いただきますが、残念なことに診療活動には携わっていただくことができません。大変に恐縮ですが、東洋医学科の新井先生の外来は閉じさせていただきます。新井先生の外来にご通院されていた皆様におかれましては、不安に思うお気持ちも強いこととは存じますが、私と、この4月より着任した准教授の谷口大吾の両名が、これまで以上に真摯に診療にあたりますので、ご容赦いただければと存じます。

新井先生のご退官を受け2024年度からは私、野上達也が当科の診療科長を拝命いたしました。浅学菲才の身にて、新井先生と同等の活動ができるとは元より考えてはおりませんが、引継ぎに際しては患者様への影響を最小限に留め、皆様の健康増進、疾患の治癒のために、万全を尽くすこととお約束いたします。

今後は少しずつ努力を重ね、新井先生が築き上げてくださった東海大学医学部附属病院東洋医学科をしっかりと維持し、その土台の上に更なる業績を積み重ね発展させていくことを目指したいと考えています。しばらくはやや落ち着かないこともあろうかとは思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

(野上達也)



<外来診療担当表>

診療および予約場所 4階 東洋医学科 電話：0463-93-1121 内線 6418 (14:00~15:30)

	月	火	水	木	金	土
午前 8:00~11:30	野上達也	野上達也	谷口大吾	野上達也	谷口大吾	野上達也 (第1・5) 谷口大吾 (第3)
午後 13:00~15:30	野上達也 (第1・3・5) 宮武典子 (第2・4)	谷口大吾	谷口大吾	野上達也	谷口大吾	

煎じ薬のご案内

「煎じ薬」による漢方治療が可能です
*健康保険で処方できますので担当医にご相談ください

- 「煎じ薬」とは、
- ★ 漢方薬の原料である生薬を細かく刻んで調合し煮出したものです
 - ★ お一人お一人の症状や体質に合わせた処方の選択が可能です
 - ★ 生薬が持つ効能を余すことなく引き出せ、処方本来の薬効が発揮されます
 - ★ 液体なので薬効成分をすばやく吸収することができます



☺ コーヒーに例えると、「煎じ薬」は焙煎されたドリップコーヒー
「エキス剤」はインスタントコーヒーのような違いです

新任医師紹介 - 谷口大吾



2024年4月1日から東洋医学科の外来診療を担当させていただきます谷口大吾と申します。もともとは関節リウマチが専門の整形外科医です。整形外科を受診する痛みの患者さんや、リウマチの患者さんを診察していく中で、西洋医学と東洋医学のいいところを組み合わせた診療を行っていました。例えていうならガソリンと電気のいいところを利用した、トヨタ自動車のハイブリッド車のようなイメージでしょうか。ハイブリッド車に限界があるように、西洋医学と東洋医学のハイブリッド治療にも限界があります。限界を突破するためには根本的な原因と向き合う必要があると感じています。

東洋医学では病気の原因として、環境など人の外側にあるもの（風、寒、暑、湿、燥、火）、心のなど人の内側にあるもの（喜、怒、憂、悲、思、怖、驚）、外でも内でもないもの（飲食：食べ過ぎ、栄養不足、不潔、偏食。労働：働き過ぎ、動かな過ぎ。外傷）が挙げられています。また、西洋医学でも遺伝の関与は重要で注目されてきましたが、近年、生活習慣をはじめとした環境の大切さが、整形外科領域の痛みの患者さんだけでなく、循環器系や癌など、さまざまな病気で指摘されるようになってきました。これらの背景から、本当に病気が治るためには運動、栄養、心な

ど根本的な原因となっているものを最大公約数的にみつけて、取り扱う必要があると感じます。

いろいろな理由でお困りの方が東洋医学科を受診されると思います。最初は十分な量の漢方薬を使用して症状を緩和していきますが、徐々に必要な漢方薬の量が減り、最終的には漢方薬もたまにしか使わなくていいような健康な状態になることが理想ではないでしょうか？

病気の苦しみを乗り越え、成長し、生きる喜びを見出す。そんな診療をしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

<略歴>

- 1973年 京都市生まれ
- 1992年 桐朋高校卒業
- 1999年 滋賀医科大学医学部卒業
- 1999年 京都府立医科大学整形外科入局
- 2009年 京都府立医科大学大学院卒業（医学博士）
- 2013年 京都府立医科大学整形外科講師
- 2017年 京都第二赤十字病院リハビリテーション科副部長
- 2022年 九州大学病院心療内科医員
- 2024年 東海大学医学部専門診療学系漢方医学准教授

<専門医等資格>

- 2006年 日本整形外科学会専門医
- 2009年 日本リウマチ学会専門医・指導医
- 2017年 日本東洋医学会認定医
- 2018年 日本リハビリテーション医学会専門医
- 2020年 日本東洋医学会専門医

コロナと鍼灸 ～第71回漢方教室の振り返り～

3月16日に開催した第71回漢方教室では、コロナに感染して生じる代表的な症状（倦怠感、咳、喉の違和感）に対して鍼灸治療で使用する経穴を紹介し、参加者とツボ刺激を行いました。その中で、コロナの症状に使い、なおかつこれからの季節の症状に併せて使える経穴を紹介いたします。

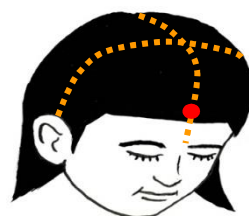
上星（じょうせい）：鼻詰まりや二オイがわからないなど鼻症状に使用することが多く、コロナ症状に限らず花粉症による鼻詰まりにも使用することができます。刺激方法としては、経穴を押さえて深呼吸2回分の長さを押

さえてください。

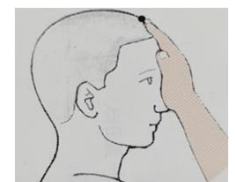
人によってはその場で鼻の通りに変化が現れます。

その他上星は、前頭部痛・めまいに使用することもできます。

（山中一星）



前髪の生え際から真上に指1本上がったところ



上星の簡単な取り方（行外引用：絵で見る指圧・マッサージ）
手関節掌側横紋を鼻先にあて、中指の先端が当たるところ